6/13・15 第74回南宇和郡中学校総合体育大会（第2部）

「第74回南宇和郡中学校総合体育大会（第2部）」が開催され、南レク城辺多目的グラウンドで陸上競技、御荘中学校プールで水泳競技が行われました。各競技会場では新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、基本的な感染対策を徹底して開催されました。

13日(月)には南宇和高等学校相撲場で行われた相撲競技では、日頃から練習をともにする仲間と技を競い合いました。

県総体への意気込みについて御荘中学校相撲部の選手は、「ライバル校に勝てるよう、メンバーと協力して試合に臨みたい」「全勝して1位で全国大会に進めるよう頑張りたい」とさらなる高みを目指していました。

相撲競技

▶団体戦

上位入賞者
優勝：御荘中（不戦勝）

※不戦勝につき県総体へ出場

5/29 kids野球体験教室 in あけぼのグラウンド

あけぼのグラウンドで4～5歳児を対象にした野球体験教室が開催され、親子20組が参加しました。今回の体験教室は7月27日㈬に松山市坊っちゃんスタジアムで開催される「マイナビオールスターゲーム2022」を目前にして県内各地で機運が高まる中、「えひめ愛・野球博」のプロジェクトとして行われたものです。

当日は絶好の野球日和の中、講師に愛媛県松前町出身で元プロ野球選手の今井圭吾（けいご）さん（元日本ハムファイターズ）をお招きし、少年軟式野球チーム「南宇和レッドファイターズ」の選手7人がサポートを務めました。

子どもたちは遠投やティーバッティング・ペットボトル倒し・ミニゲームなど、ボールに触れるさまざまなアトラクションを約2時間にわたり体験し、今井さんからレクチャーを受けながら保護者と一緒に全力で楽しんでいました。

今回の体験教室を終えて今井さんは、「小さい子がボールに触れあう機会が少ないため今回のような体験教室の重要性を感じている。園児や小学生の時からボールに触れることで野球が地域にさらに根付くと思う。早くから野球に親しんでもらい愛媛の野球を盛り上げていただきたい」と話しました。

体験教室の最後には愛南町婦人会による手作りのお弁当が配られ、受け取った子どもたちは笑顔で帰路につきました。

▲子どもたちにバッティング方法をレクチャーする今井圭吾さん

▲「野球とっても楽しかったよ！今井さんありがとう！」

愛媛CATV動画

6/26 令和4年愛南あけぼのアーチェリー大会

「令和4年愛南あけぼのアーチェリー大会」（愛媛県アーチェリー協会主催）があけぼのグラウンドで開催され、町内外の小学5年生から一般まで14人が出場しました。昨年の3月に愛南町で初めての大会が行われ、今大会が2回目の開催となり、12メートルから70メートルまでの4種別で各選手が72射を放ち、合計得点を競いました。

6射ごとに得点を記録しながら競技は進められ、記録や休憩の際には選手同士でアドバイスをし合うなど、アーチェリーを通じて親睦が図られている様子でした。

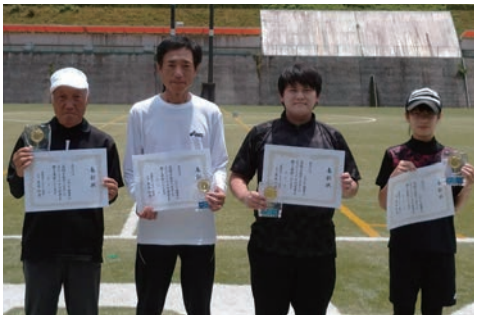
12メートルの部に出場した和田倫良（りら）さん（福浦小5年）は、「的の中心に当たると嬉しい。大会に参加すると町外の選手とも仲良くなれて楽しいし、これからもアーチェリーを続けていきたい」と話しました。

今治市から参加した秋山萌（もえ）さん（今治西中1年）は、「自分の放った矢がきれいに的に刺さることがとても気持ちいい。中学生になってなかなか練習ができないけど、これからも続けていきたいスポーツだと思う」とアーチェリーの魅力を笑顔で話しました。

【大会結果】

12メートルの部：和田 倫良（りら）さん（愛南アーチェリークラブ）
18メートルの部：武田 峻児（しゅんじ）さん（愛南アーチェリークラブ）
30メートルの部：宮岡 淳（まこと）さん（愛南アーチェリークラブ）
70メートルの部：井原 久志（ひさし）さん（愛媛県アーチェリー協会今治支部）

▲スタートの合図と同時に一斉に矢を放つ出場者たち



▲左から井原さん、宮岡さん、武田さん、和田さん

愛媛CATV動画

平城貝塚の歴史に新たな1ページを刻む

日本で初めて科学的な発掘作業が実施され、国の史跡に指定された東京都大森貝塚。その発見からわずか14年後に発見された平城貝塚は、縄文時代を研究している考古学者にとっては欠かすことの出来ない重要な貝塚です。

貝塚では貝殻に含まれる豊富なカルシウムが保存料のような役割しており、埋葬された縄文人の骨や土器などがまるでタイムカプセルのように質の良い状態で残る。

平城貝塚でも現在14体の縄文人骨が発見されており、中でも状態の良い第3号人骨は多方面から研究対象として注目されている。

今回調査に訪れた岡山理科大学や南山大学など、各研究グループからの調査を受け入れることで、調査成果が町に還元され、日本人の起源を探るのに大きく貢献している。

町では平城貝塚の範囲と価値を明らかにし、貴重な遺跡を後世へと伝えていくため、国史跡としての指定を目指して保護を進めていく。

第3号人骨から探る日本人のルーツ

5月28日㈯、平城貝塚展示室を訪れた岡山理科大学教授と学生2人が第3号人骨を調査。

第2臼歯や第3臼歯（親知らず）の生え具合や頭蓋骨の冠状縫合の癒着から、さらに詳しい年齢を推定していく。

10代半ばと報告されていた第3号人骨に対して、「年齢は13～15歳、身長は130センチメートルほど」と同大学生物地球科学研究科修士の宇佐美礼恩（れおん）さんは推定した。

その他にも、眼球のくぼみの壁に細かな穴が開く【クリブラ・オルビタリア】から貧血状態であったことや歯の表面に横じまが入る【エナメル質減形成】から幼少期に栄養不足だったことなどの推測を行った。

今後は収集した同時期の縄文人骨の情報と比較し、埋葬の在り方や平城貝塚の特性を把握していく。

6月9日㈭には南山大学の中尾央（ひさし）准教授がレーザー光を用いて第3号人骨の3次元データを取得し、骨の情報を収集した。レーザー計測のように近年の急速な研究技術の進歩により、新たなる発見に結びつくことが期待されている。

中尾准教授は、「各地の骨の情報を集積・比較することで、縄文時代全体の中での平城貝塚の位置付けを把握できる。また、骨と文化の情報を比較し、集団の移動と文化の伝播の関係も解明できる」と話し、平城貝塚の歴史的価値を大きく評価した。